

# メチル水銀の健康影響を客観的に評価する調査手法の開発



【令和3年度補正予算（案） 341百万円】



水俣病の診断に有用な評価法の確立および妊婦のメチル水銀の耐容摂取量の推定を目指します。

## 1. 事業目的

- ① 脳磁計を用いて、水俣病の中核をなす感覚障害を客観的に評価する診断手法を開発する。
- ② MRIを用いて、水俣病の中核をなす運動失調・視野障害を客観的に評価する診断手法を開発する。
- ③ 健康影響を引き起こす可能性のあるメチル水銀の胎児期曝露の閾値及び母親の耐容摂取量を推定する。

## 2. 事業内容

水俣病の被害の実態解明の達成のためには、メチル水銀の健康影響を客観的に評価する調査手法の確立が不可欠。このため、水俣病の52年判断基準の礎となっている感覚障害・運動失調・視野障害の客観的評価法の確立を目指します。また、メチル水銀の感受性が高い胎児期の健康影響の解明を目指します。具体的には、以下の事業を行います。

- ・ 脳磁計を用いた水俣病の感覚障害を客観的に評価する診断手法の開発（産業技術総合研究所との共同研究）
- ・ MRIを用いた水俣病の運動失調・視野障害を客観的に評価する診断手法の開発（熊本大学・東京大学との共同研究）
- ・ 耐用年数を超過し故障が増えてきているMRIの更新
- ・ 太地町の保存臍帯メチル水銀濃度と脳磁計・MRI所見を比較することで、メチル水銀の胎児期曝露の閾値の推定

## 3. 事業スキーム

- 事業形態 機器・試料購入等
- 購入等先 大学・研究機関・民間事業者
- 実施期間 令和3年度～令和6年度（予定）

## 4. 事業イメージ

